

いっぱい入れても、こぼれないんだよ。なんでこぼれないの？



8月
水遊び中にタライの中にある玩具が、動くことに気づく。

あれ？
おもちゃが
うごいてる



今までは水の上で玩具が動いても気にせず遊んでいたが、他児の発言を聞き、気にする子どもが増え始める。
“なぜ動いたのか”を話し合ってみると「かってには、うごかないよ」「なみでうごいたんじゃない」と水の特徴を知っている子どもから意見が挙がり、水遊び時に水の動きの実験を開始する。

みんなで
とまったら
どうなる？



9月＜振り返り＞

実際に川遊びを行い、筏に乗ると下流から上流には進めなかった。この時、子どもたちは水の流れではなく、筏の乗り方を気にしていた。一人の子どもが上流でバケツを手放してしまい、バケツが下流に向かって流れていくのを見ると、「あれ、ばけつがながれてるよ」「なんでだろう」と話し、このことが川の流れに注目するきっかけになる。筏を流してみたり、筏に乗って下流に向かってたりと川の流れを意識して遊ぶ姿が見られた。

この活動を通して、『水には流れがある』ことを知り、身体を動かしながら経験した。その後は、コップになみなみと水を入れ、水が溢れない表面張力にも興味を持ち、実験する姿も見られるようになった。

来年度も川遊びをする機会があるため、子どもたちの関心がより広がるような活動を継続していきたい。

自然（水の流れ）

水遊び中、タライの中に浮いていた玩具が動くことに気づいたことをきっかけに、『水の性質』へと興味を広げていく。

8月

夏の水遊び中、タライの水の上に浮かんでいた玩具を掬おうとした時に、玩具が動くことが気になった子どもたち。「なんでうごいちゃうんだろう」と水の動きについて考え始めました。

波や渦の流れを作って試行錯誤をしていた時期に、5歳児がお泊まりキャンプに行く。その写真を見ながら話を聞く中で、川遊びで筏に乗って遊んだことを知る。
→9月に行く下見遠足（養沢）での川遊びで自分たちも水の上に乗ってみたい！

いかだも
ながれるかな？



あ！ながれてきた！



あれ？
ばけつが
ながれてきた



上流からバケツが流れてきたことで、川に流れがあることに気づき始める。



ぜんぜん
すすまない

準備したもの
・いかだ

南馬込
第二保育園
4歳児クラス